

Ⅲ 松商学園高等学校

1. 基本方針

下記の内容に重点を据え教育を推進する。

- ①普通科・商業科の教育内容について検証し、一層の充実をはかる。新教育課程を改善する。
- ②大学進学等、生徒の進路実現へ向けて指導を徹底する。
- ③クラブ活動の一層の充実をはかり、より高い目標を実現しつつ学園を活性化する。
- ④国際交流等を通して、次代のリーダーとしての資質・能力を育成する。

2. 学習指導・内容の充実と進路実現

1) 商業科

- ①地域に根ざした商業教育、技術革新に対応した情報教育を更に充実させ、ビジネスに関する一般的知識だけでなく、会計・経済・情報などの専門的知識、技術を習得させ、諸検定での上級合格者の増加を目指し、職業人・商業人として必要な態度を育てるための体制を確立する。
- ②大学進学希望者が大半を占める現状に対応するため、より高度な資格取得を目指しつつ、一般・専門教科の学力増進も図っていく。2 コース制への移行に伴い情報関連および会計関連の資格取得に特化した指導を進める。
- ③松本大学・短期大学部・明治大学等との連携について研究、推進する。具体的には、大学との接続を検討し、高度資格の取得を前提とした5年制および7年制に向けた検討を進める。
- ④現在進行中の地域や大学と連携した商品開発プロジェクトや実践的教育を推進する。開発商品の積極的なPRと販売実習を年間通して行う。
- ⑤土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。
 - ・松本大学体験講座に積極的に参加し成果があった。
 - ・各種資格検定試験への取り組みを強化し、上級取得を含め実績を残せた。
 - ・地元食材を活用した新商品開発事業を実施した。
 - ・外部講師による特別授業を実施した。(租税教室・男女参画社会)
 - ・商工会議所、青年会議所等の団体と連携、協力しボランティア活動を行った。

2) 普通科・総合進学コース

- ①クラブ活動の実績も活かして希望の進路を実現させる生徒もいるため、効率の良い活動により基礎学力を定着させる学習指導を更に工夫する。
- ②「総合的な学習の時間」を活かし、生徒の意欲・知性向上を図ると共に進路決定にも活かしていく。
- ③英語技能検定・漢字技能検定等の資格取得に挑戦し進路実現の幅を広げる。
- ④土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。
 - ・部活動に活発なコースであるため補習授業は成立しなかったが、朝テストの実施等で少しずつ基礎学力向上が見られる。

3) 普通科・文理進学コース

- ①生徒の学力向上および学習時間確保のために通年実施する補習授業や長期休業中の補習授業を強化する。
- ②自学自習の効果を上げ、不得意分野克服のためにも、サテライト講座の充実を図る。

③漢字能力検定・英語技能検定において、上級合格を目指し、補習を強化していく。

④0 限・7 限選択授業の実施。

⑤土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。

・進路実現率は高いが、もう少し一般受験で難関大学に挑戦して行く生徒を増やしたい。

4) 普通科・選抜進学コース

①校外模試・進学ガイダンス等を通じて受験生集団における自己の学力を的確に把握し、大学受験に対応できる学力を培う。

②3 年生については秋期より特別編成授業を実施し、受験に向けて徹底した指導を実施する。

③土曜授業廃止に伴う補習授業の強化を図る。

・現役で国公立大学合格者を 7 名輩出し、一定の成果を出すことができた。

5) 普通科・特別進学コース

①1 年次冬期に海外語学研修を新たに実施。(期間は 2 週間、実施地英語圏) 今後もより充実した内容の検討を深め、継続していく。

②朝テスト、サテライト講座、夏期休業特別指導、オープンキャンパスツアー、大学見学会等の実施。

③土曜授業 (1 コマ 65 分×3) を充実したものにする。

・現役で国公立大学合格者を 7 名輩出し、割合にすると 30%強となり、一定の成果を出すことができた。

3. 進路指導について

1) 第 1 学年

①学級・コース別 PTA の開催、学校の方針を正しく伝え、保護者の理解を得る。

②基礎 (中学) 学力の充実をはかり、初期の段階で高校生活の学習習慣を身に付けさせる。

2) 第 2 学年

①各種 PTA 説明会を開催し、学校方針の再確認をするとともに、生徒・保護者の進路に向けてのモチベーションを高める。

②2 年次後半にはガイダンス等を企画、進路が明確になり 3 年次へスムーズに移行できるようにする。

3) 第 3 学年

①進路決定の最終段階として保護者・生徒への進路ガイダンスを充実させる。

②就職者に対しては、公務員模試・SPI の学力対策と面接・社会マナーの講習を実施する。

③推薦合格者に対し、高校学力保障の観点から、模試・センター試験を利用する。

・目標としていた進路実現率 95%を達成することができたため、各種取り組みが一定の成果を出していると考えられる。

4. 生徒募集について

①昨年から実施した県に準じた主要 5 教科一般入試を推進する。

②県立の合格発表翌日に実施する一般入試 B をさらに熟考する。

③教育課程の変更、制服の改訂を積極的にアピールし、「あこがれ・希望を感じる松商学園の魅力」をより強化し、情報発信を戦略的に徹底して行う。「学びたい学校」の立場を確立する。少

子化の中、増募は難しい面もあるが、最大限の工夫と努力を行う。

④入試説明会、体験入学を充実させると共に学校説明会は松本大学を借りて、学園の宣伝にも努め、積極的に情報発信し、生徒募集を推進する。

- ・推薦入試について、従来から学校長推薦の他に自己推薦（併願推薦）を導入し、特別進学コース入学者の大幅増につながった。今後もこの方法は安定的な同コースの生徒確保になると思われる。しかし、同コース志願者の大半がこの入試を利用した場合、一般入試 A の志願者は激減すると予想できるため、5 教科入試の再考が必要である。一般入試 B については、今回志願者が無かったものの中学側からの需要は今後もあると推察できる。

- ・学園全体の宣伝も兼ね、松本大学での学校説明会開催は有用であった。今後も、学校説明会開催時は同会場で実施したい。

5. 広報活動について

1) 広報活動全般に関して

ポスター、チラシ、体験入学、ホームページの充実、新聞広告（信濃毎日新聞・市民タイムス・タウン情報等）の広報活動を活発に行い、より効果的な内容、媒体等研究を深めていく。

2) 情報発信に関して

本校の歴史、伝統、多様性等を生かし、校友は勿論のこと、地域への情報発信をタイムリーに行い、本校への関心を更に高め、学校支援の基盤としての力（地域に愛される「松商学園」）をより一層高める。

- ・費用対効果を考慮して精選した。今後はホームページの有効利用をより推進していきたい。
- ・校友・中学生・地域に対し、有用な情報発信ができた。

6. 生徒指導について

①HR・授業における挨拶と身だしなみの指導、開始時・終了時の挨拶徹底、開始時の服装指導。

②交通安全教育の充実・徹底

③登校指導、制服の正しい着用、自転車マナーの徹底

④校内巡視

⑤携帯電話・携帯ゲーム機の指導

- ・新制服に変更し2年目になるとともに、身だしなみ指導を特に強化した。
- ・自転車事故を防止するため、様々な角度から指導した。
- ・生徒会活動は生徒の自主的な活動のもと充実した取り組みができた。

7. クラブ活動について（平成 28 年度 顕著な成績）

①全国高校総体に 62 名が出場し、国体には 17 名が出場した。

②女子バレーボール部が第 69 回全日本バレーボール高等学校選手権大会に 11 年振りに出場した。

③第 29 回全国高等学校総合体育大会スキーアルペン競技 準優勝

④フリースタイル全日本選手権モーグル種目優勝

⑤第 63 回 NHK 杯放送コンテスト テレビドラマ部門 3 位 テレビドキュメント部門 5 位

⑥第 40 回全国高等学校囲碁選手権大会 女子団体出場

- ・全国大会上位を目指してさらに努力してほしい

8. 保健衛生・健康管理の推進

1) 生徒・職員の心身の健康維持

健康診断でチェックされた生徒には早めに受診通知書を出し、その後の治療結果まで確認をとる。また、要観察の生徒については、必要であれば保護者と連絡を取り、関係職員の中で情報を共有し対応する。保健室で把握した生徒の心の問題・身体等の既往歴に関する情報は、校内委員会で情報を共有しサポートする。健康増進についての研究・講習会等を増やし、生かせる活動を展開していく。職員の知識向上のため、年に1回は研修会を行い、精神保健について全職員が学ぶ機会を設ける。

2) 生徒への教育（健康教育、感染症予防の徹底、性教育、DV防止、薬物乱用防止）

3) 緊急体制づくり（安全な環境づくり、危機管理マニュアルの徹底、災害時マニュアル保健室用徹底）

①AEDの設置場所増設。

②インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症に対し、生徒、保護者、職員に保健だよりを配布し予防指導を行う。

③殺菌用消毒石けんとアルコール消毒の設置を行う。

④感染症が出た場合の速やかな対応体制により感染拡大を防ぐ。

- ・1 学年全員の生徒対象に心肺蘇生法を実施するなど、年間予定されている行事を計画通り実施できた。
- ・加湿器を教室に設置するなど教育環境の向上に努めた。

9. PTA 活動の推進

各種事業を積極的に計画・推進し充実した活動を展開していく。

①教育活動（学習活動、クラブ活動）に対して、効果的な財政的支援を研究し、推進していく。

②私学助成活動を積極的に推進し、陳情活動の実施と署名活動の協力を行う。中信地区私学助成推進協議会の事務局に協力し陳情活動を行う。春と秋に教職員が行っている署名活動に協力する。

③PTA 地区会を多くの地区で開催することにより、保護者との意見交換を図りたい。

- ・教員と保護者との連絡を密にし、生徒の情報を共有しながらいい意味での連携ができた。
- ・私学助成活動に積極的に参加していただき、各市町村への陳情、署名活動を行った。
- ・PTA 教育セミナーは保護者主導で行われ教員がサポートする形で充実したセミナーとなった。

10. 環境整備の推進

1) 環境関係について

地道な日々の清掃活動が主であるため、厚生委員会による巡視を徹底していく。

2) 施設関係について

必要備品であるロッカーや下足箱が適正に配置されるよう割り振る。

3) 防災・防火関係について

年2回義務付けられている防災訓練のうち、一回は全クラスに対する防災ビデオの上映ともう一回、総合防災訓練を企画する。特に総合防災訓練では、救護所の設置、トリアージ、けが人搬出、消火器訓練、放水訓練、非常用トイレの設置等多岐に渡るものを企画していきたい。

・総合防災訓練で煙道体験を取り入れるなど、実践的な訓練となった。学園寮である源智寮においても防災訓練を実施した。

1 1. 国際交流活動の推進

①釜慶高等学校へ本校代表団・サッカー部・ホームステイ生徒が訪問（8月）の予定。

②英語圏高校との連携・交流について研究していく。

・平成 28 年 8 月釜慶高等学校へ訪問団を形成し、代表団（生徒会・PTA・校友会含む）・サッカー部 20 名、ホームステイ生徒 5 名の計 35 名が訪韓し、サッカーの親善試合ならびにホームステイを予定通り実施することができ、両校間の絆をさらに深める行事となった。

・今後は、グローバル人材の育成を視野に入れ、長期休業期間を利用した英語圏との交流先の開拓や、留学生の受入について研究することが必要であると考えます。

1 2. 特別支援教育について

①中高連絡会での情報と担任による入学後早い時期の生活観察等から不応生者の早期認識をし、不応生者と保護者への対応を迅速かつ丁寧に行っていく。

②学年主任・学級担任と養護教諭・スクールカウンセラー等の連携を密にし、一人ひとり生徒の心身両面についての的確に理解し、医療機関との連携も図っていく。

③特別支援教育について研修を重ね理解を深めていく。支援が必要な生徒について個々のケースに応じ支援シートを作成し、教育センターと連携・対応していく。

・特別支援の必要な生徒については職員間で情報を共有し、スクールカウンセラーのアドバイスを受けながら、適切な対応ができた。

・特別支援教育の研修パーソナルサポート委員会を中心に積極的に参加し、多様な生徒対応について研鑽をした。

1 3. 情報管理について

1) 学事システムについて

成績処理はホクコウ株式会社の新システムに移行した。このシステムに教務関連を導入し、安全に運用し業務の透明性を確保する。

2) 入試システムについて

ホクコウ株式会社の新システムを導入し、入試処理を間違いなくスムーズに行い、安全性を確保する。

3) ネットワークの安全性の確保について

データファイルをより安全に保守する。

・新学事システムは平成 27 年 10 月に移行し 2 年目が経過する。今年度は、毎日の時間割展開を実施し、個々の生徒の出席（派遣管理含む）管理について運用を開始した。過年度までは、学期毎のまとめ入力となっていたため、保護者懇談等の際、欠席・欠課日数について即時に把握することが困難であった。現在は、リアルタイムに把握することが可能となり、生徒指導（欠課超過科目）が容易となった。

また、学事システムの掲示版を利活用するよう啓発したため、朝礼の諸連絡等詳細については掲示版を参照するよう促すことができた。

- ・平成 29 年度入試から新入試システムを導入し、複数台での志願者入力を可能としたため、入力時間が軽減されるとともに、その後の照会ならびに帳票出力についても担当者が容易に出力できるよう業務改善が行われた。

- ・移行した学事システムは一元管理の仕様が構築されており、全ての操作履歴が管理されているものの、データの安全性については取り扱う担当者に依存することが多い（USB へのデータ保存や出力帳票等の持出がある）と推察されるため、教職員（非常勤含む）への定期的なコンプライアンス遵守の意識付けが必要であると思われる。

14. 図書視聴覚教育について

1) 図書館教育

学校図書館の環境整備および利用促進の啓蒙活動。図書委員会の生徒会活動（図書当番、文化祭展示等）の指導。学園内の図書館（松本大学図書館、松商学園高校図書館、秀峰中等教育学校図書館）相互利用の促進。

2) 視聴覚教育

視聴覚室の授業利用等の援助協力。視聴覚教材の補充

- ・平成 28 年度は、図書館システムを新システムへ移行し、利用できる検索用端末（タッチパネル式）を設置、利用者が直接蔵書検索できるよう業務改善を行った。

また、今回導入の新システムは、松本大学図書館で運用している「情報館」を選択したため今後、学園内の相互利用促進を期待したい。

- ・生徒の図書貸出数は、平成 26 年度 3,537 冊（2.13 冊／人）、平成 27 年度 3,536 冊（2.36 冊／人）、平成 28 年度 3,019 冊（2.14 冊／人）であるため、特に大きな変動はなかった。

- ・今後は多様化する生徒を鑑み、図書館利用のあり方を研究するとともに、利用者数の把握をすることが急務であると考えます。

- ・来年度予定されている芸術鑑賞の計画、立案をし、トマト座による「ひめゆり」を鑑賞することに決定した。

15. 教職員の研修について

①初任者研修（5 月下旬）②PC 初任者研修（5 月下旬・7 月上旬）③教授法研修（5 月下旬）④人権教育研修（7 月上旬・10 月下旬）⑤小論文指導研修講座（6 月中旬）教育セミナー等の積極的参加

- ・長野県健康福祉部・小沢孝二氏を招き「心に困難を抱えて生活してきた人々」を演題に講演会を実施した。その他予定された研修について計画通り実施できた。

16. 学校評議員制度（学校関係者評価委員）の充実

①本校の教育内容・成果等について評価を受け、学校として教育力や教職員の意欲を向上できるよう努める。

- ・平成 28 年度は 6 月に実施、様々な客観的評価をいただき、今後の教育活動の参考になった。

17. 学校施設・環境整備等について

①老朽化に伴う改修箇所の調査を行い、工事規模を検討する。

②優先順位を検討し、改修工事の計画と実施を行う。

・平成 28 年度普通教室棟の第 1 期改修工事を下記の通り実施、期間内に完了した。

工事名称：松商学園高等学校普通教室棟（A・B・C 棟）第 1 期改修工事

工事期間：着工日 平成 28 年 9 月 5 日 ～ 工事完了日 平成 28 年 12 月 16 日

工事概要：普通教室棟屋根および外壁塗装等改修工事ならびに校舎側防球ネット張り替え

・今回の改修工事は屋根への防水シート、外壁のクラック補修を施工したことで恒常的な雨漏りが解消されるとともに、木造校舎と外壁色を統一し校舎の一体感を計った。また、併せて教室南側窓に色付き飛散防止フィルムを貼付し、紫外線カットと室内温度を逃がさない対応にもなった。

・上記改修工事に併せて、新講堂（体育館）北側ならびに旧講堂北側職員用駐車場の駐車区画整備を実施し、木造校舎前に駐車していた校用車（5 台）を新講堂北側に移動することが可能となりカラスの糞害を避けることができた。

・来年度は、普通教室棟第 2 期改修工事（内装：教室内・廊下等）を計画する予定であるが、内装については長期休業期間中でないと作業が困難であるため、数回に分けて実施することが見込まれる。

18. 歴史栄光室について

①見学について新入生対象・松商祭一般公開時・体験入学・同級会等の際、企画・案内を行う。

②歴史栄光室報を発行する。

・一般入場者 669 名、入学生 441 名

・主な寄贈品 巨人軍 OB 会帽子・写真・記事（堀内 庄）、松本商業時代の野球部写真、瞳のある土偶（3D レプリカ）、昭和 3 年 8 月大阪朝日新聞記事、第 79 回甲子園大会応援列車ヘッドマーク

19. 松本大学との高大連携について

松本大学と松商学園高校間の教員相互派遣や施設の利用を通して双方の教育を充実していく。大学施設を利用した体力測定や栄養講座、高校の授業への講師派遣、公開特別講座、大学の基礎教育講座への講師派遣等を通じ、更に連携の範囲を広げ教育力の充実を図っていく。

・松本大学の講師派遣、入試相談等、職員間の連携もあり大学に 57 名、短大に 29 名進学した。

20. キャリアサポートセンターについて

①地元への就職支援を行う「第 6 回松商学園卒業生就職セミナー」を開催する。

②長野県内に事業所を設置している企業約 1,800 社へ求人依頼し、企業情報を収集する。

③松商学園高校校友会との連携を強化する。

・本校では、県外の大学等に進学し、地元への就職を希望する卒業生に対し、相談・情報提供・アドバイスを行うキャリアサポートセンターを平成 23 年 5 月に設置した。近年の人口構造は首都圏一極集中となり、地方は人口減少を避けることが困難となっている。長野県内においても、18 歳人口の多くは県外へ進学（流出）している現状があり、雇用環境は改善傾向ではあるものの、地元へ就職する際の情報収集には苦慮していると推察する。このような状況を鑑み、若者の未来を支え、地域に活気溢れる有能な人材を定着させることは、119 年の歴史を

持ち各業界に人材を輩出する松商学園の使命であり、地方創生の一端を担うものと考え。今年度、本校でのサポートは6年目となり就職解禁前に就職セミナーを開催したものの、参加学生は40名程度であった。卒業生が進学した先にもキャリアセンターは存在しているため、出身高校でキャリアサポートの存在が浸透しづらいことが課題であるため、校友会との連携を図りながら卒業生への周知を強化していきたい。

21. その他

平成28年6月明治大学との連携が終了し、新たに健康科学大学との連携をスタートさせた。